



コロナワクチンあれこれ



今年も年末が近づき、インフルエンザや新型コロナに悩まされる季節が間近にせまって参りました。今回は、コロナワクチンについてお話ししたいと思います。

新型コロナワクチンは、2023年度までは全額公費負担で、無料接種が行われてきましたが、今年度からは、季節性インフルエンザと同様に高齢者などを対象に、**原則、一部自己負担のある「定期接種」**となりました。対象者となるのは、①65歳以上の高齢者、②60歳から64歳の重症化リスクが高い人で、10月1日より各自治体で定期接種が開始されています。一方、「定期接種」の対象となっていない人は「任意接種」となるため、原則全額が自己負担で、医療機関によって異なりますが、1回1万5000円程度ようです。

使用されるワクチンの種類は、表1に示すように**5種類**ですが、このうち今回初めて接種に使われるMeiji Seika ファルマのワクチンは「**レプリコンワクチン**」とも呼ばれ、新しいタイプのワクチンです。

このワクチンには、mRNA自体を体内で複製する酵素も組み込まれており、mRNAが体内で複製されて増えるため、従来のmRNAワクチンよりも強い免疫反応を得ることができるかとされています。ただ、mRNAが体内で複製される、といった文言が、様々に解釈され、安全性に不安を抱く人たちが団体から懸念や批判がでております。試験のデータでは、mRNAは徐々に消えて、複製し続けるわけではなく、これまでのmRNAワクチンと同じように考えていいとの説明もなされていますが、やや混乱した状況が続いており、今後どうなるかは見通せません。

国立感染症研究所が行っている新型コロナウイルスのゲノム解析によりますと、ことし9月の時点で全国的に流行の主流となっているのは、オミクロン株の一種で、「KP.3」と呼ばれる系統と考えられています。

一方、10月1日から接種がはじまったのは、ことし1月から流行している「JN.1」と呼ばれる系統に対応するワクチンです。「KP.3」は、「JN.1」から派生した系統で、今回のワクチンは、「KP.3」系統のウイルスに対しても、効果が期待できるということです。

しかし、任意接種の料金があまりに高すぎて、ほとんどの人が接種しないのでは？と思うのは私だけでしょうか？
(腎臓内科 田中 敬雄)

表1. 定期接種として用いられる新型コロナワクチン

製剤名	製薬企業	種類	1回用量	我が国の初回承認日
コミナティ筋注シリンジ12歳以上	ファイザー	mRNA(JN.1 SP)	30μg	2021年2月14日
スパイクバックス	モデルナ	mRNA(JN.1 SP)	50μg	2021年5月21日
ヌバキソビット	武田薬品工業	組換えタンパク質(JN.1 SP)	5μg	2022年4月19日
ダイチロナ	第一三共	mRNA(JN.1 SP RBD)	60μg	2023年8月2日
コスタイペ	Meiji Seika ファルマ	mRNAレプリコンタイプ(JN.1 SP)	5μg	2023年11月28日

SP, スパイクタンパク質; RBD, 受容体結合部位

日本ワクチン学会ホームページより改変



AMR(薬剤耐性)を防ごう!!



11月は「薬剤耐性(AMR)対策推進月間」です。薬剤耐性(AMR: Antimicrobial Resistance)とは、抗菌薬の不適切な使用により細菌に対して抗菌薬が効きにくくなる、または効かなくなることを言います。AMRを持った細菌が増え続けると、抗菌薬が効かない感染症が増えることから、治療が困難となります。また、重症化する恐れもあることから、多くの死者を招く結果となります。AMRが増える原因としては以下のことが挙げられます。

①広域抗菌薬の使用

広域抗菌薬の投与により、AMRを獲得しやすい環境を作ってしまいます。培養結果より狭域抗菌薬へ変更することでAMRを防ぐことができます。

②抗菌薬の過少投与(投与量や投与期間)

投与量や投与期間が少ないと、耐性菌だけが増殖できる環境を作ってしまいます。十分量・十分期間の投与でAMRを防ぐことができます。

③ウイルスが原因の感染症に対する抗菌薬投与

抗菌薬は細菌による感染症である場合にのみ効果を発揮します。風邪やインフルエンザの原因となるウイルスや、真菌など他の病原微生物、非感染性疾患の発熱時には抗菌薬は効果を発揮しません。

抗菌薬の不適切な使用を背景としてAMRが世界的に増加する一方で、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題となっています。世界各国でもAMRの対策が行われており、抗菌薬の適正使用や感染予防につながる啓発活動を積極的に行っています。**適切な薬剤を適切な量と期間、必要な場合に限り**使用することでAMRを防げます。

☆今後も広域抗菌薬開始前の培養提出など抗菌薬適正使用にご協力お願い致します☆



(薬剤部 廣田 大海)